

ンを持ち込んでいるのが大半だと聞きました。

「クレーンなんかは全部骨董品だらけだ」と、オペレーター（＝運転手）から聞いたことがあります。あまりにも古いので、動かなくなることたびたびあります。

昨年10月にも動かなくなり、中を開けてみると、暖かいのでネズミが入り込んでいたこともありました。

最先端の技術を使うことが必要なのに、やっていることは戦争中の竹やり作戦と同じです。

構内に縦横無尽に張り巡らせた配管、配線。建屋内のタコ足配線なんかは足の踏み場もないような状況です。電源もケーブルも配管も仮設だらけ。僕は「これだけ仮設の配線、配管だらけでの状態じゃ、数年もしたら劣化して頻繁に水漏れや停電もするだろうし、どこに繋がっているのかもわかりづらくて大変になるだろうな」と思っていました。そしたら、3月にはネズミが配電盤に入りで大規模な停電です。（苦笑）。このような事例は氷山の一角だと思っています。

まだ事故後2年しか経過していないので仮設ばかりなのは仕方ないのかと思いますが、工事現場で働く自分からしてみれば、早く本設の電源、ケーブルに切り換える事はできないのかと疑問に思えます。

僕は、1年以上働き累積線量は70msvを超えてしまいましたが、線量が高かった緊急作業時からずっと働いていたし、2、3ヶ月で線量オーバーして帰らざるえない作業員を沢山見てきましたので、長く働けたほうかと思っ

ています。

今後も線量オーバーによる作業員不足が深刻化すると懸念しています。

最後に事故収束に必要なと思うことを書きます。

① 東電に任せきりではなく全世界の英知を集結させ、念入りな計画を組んだ国家プロジェクトを発足させて欲しい。

② 資金に惜しみなく最先端の技術や放射線防護対策を用い、作業の効率化や作業員の被曝を極力減らして欲しい。

③ 作業員の健康管理と賃金や手当など国のバックアップが欲しい。

収束作業で働く作業員を限定に国で雇えるようなシステムの構築が欲しい。

このままの状態が続くと無駄な被曝労働ばかりで先が見えず、作業員の士気も下がるばかりで被曝限度に達し、いなくなってしまう気がしてなりません。

たくさん被曝した僕は、今後生きてく上で、健康への不安は消えることはないでしょう。ですが、戦後最大の国難に打ち勝つには犠牲はつきものだと思います。

僕もあと4年経過すれば積算線量がリセットされるので、機会があればもう一度、福島第一原発で従事したいと思っています。

みなさん、どうか僕たち作業員が働きやすい環境をつくるために力を貸して下さい。